

■・BASF

We create chemistry

畑作・野菜用除草剤(土壌処理)

フィールドスター[®]P乳剤

育むのは、作物と笑顔。 畑の頼れるパートナー。

- ★ 40日以上長期持続効果!
- ★ 一年生イネ科雑草、ツユクサ、イヌホオズキ、ヒユ類に



イヌヒエ



イヌホオズキ



イガヒビユ

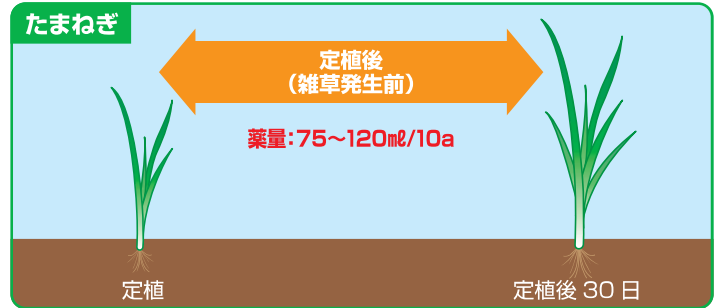
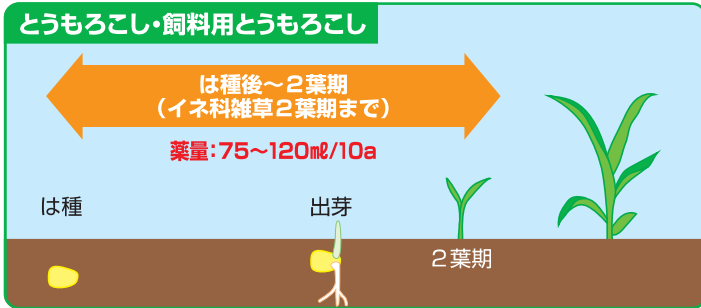
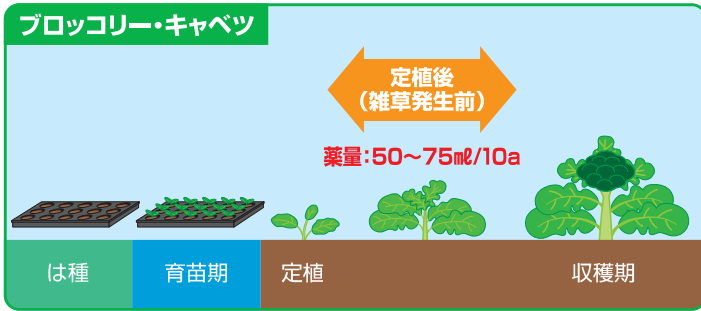


ツユクサ

ツユクサの
芽生えを
土壌処理層で
迎え撃つ!



■ 散布適期



■ 適用雑草と使用方法

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	ジメテナミドおよびジメテナミドPを含む農薬の総使用回数
			薬量	希釈水量			
てんさい (移植栽培)	一年生雑草 (アカザ科・アブラナ科・タデ科を除く)	定植後または中耕後 雑草発生前 但し 収穫45日前まで	75~120 mℓ/10a	70~100 ℓ/10a	2回以内		2回以内
てんさい (直播栽培)		中耕後 (雑草発生前) 但し 収穫45日前まで					
えだまめ だいず いんげんまめ	一年生雑草 (アカザ科・アブラナ科・タデ科を除く)	は種後出芽前 (雑草発生前)	75~120 mℓ/10a	70~150 ℓ/10a	1回	全面 土壌散布	1回
とうもろこし 飼料用 とうもろこし	一年生イネ科雑草	とうもろこし 出芽直前~2葉期 (イネ科雑草2葉期まで)					
たまねぎ	一年生雑草 (アカザ科・アブラナ科・タデ科を除く)	定植後 (雑草発生前) 但し 定植後30日まで	50~75 mℓ/10a	100ℓ/10a	1回		1回
キャベツ		定植後 (雑草発生前) 但し 定植後10日まで					
ブロッコリー カリフラワー		定植後 (雑草発生前) 但し 収穫30日前まで					
ばれいしょ		植付後萌芽前 (雑草発生前)	75~120 mℓ/10a	70~150 ℓ/10a			

⚠ 効果・害害等の注意

- 使用量に合わせ薬液を調整し、使いきってください。
- 本剤の所定量を所定量の水にすめ、よくかきまぜてから散布してください。
- 発芽後の雑草に対しては、効果が劣るので必ず雑草発生前に時期を失しないように散布してください。
- アカザ科、タデ科およびアブラナ科など一部広葉雑草には効果が劣るので、これら広葉雑草の混在する所では、広葉雑草に有効な除草剤との体系で使用してください。
- 散布後の多量の降雨は薬害のおそれがあるので、天候を見きわめてから散布してください。
- 砂土では使用しないでください。
- ブロッコリーに使用する場合には、夏期の高温時は薬害を生じるおそれがあるので使用しないでください。
- えだまめ、だいず、いんげんまめ、飼料用とうもろこし、とうもろこし及び直播栽培のてんさいに使用する場合には、碎土、整地はていねいに行い、種子が露出しないように覆土はできるだけていねいに行い、覆土深を2~3cm以上としてください。

- いんげんまめに使用する場合は、品種により薬害を生じることがあるので、金時類以外には使用しないでください。
- 散布に当たっては、他作物に飛散しないよう十分注意して使用してください。
- キャベツに使用する場合には、初期生育抑制を生じることがあるので、薬量を厳守してください。
- 散布に使った器具類は良く水洗いして、他の用途に使用する時は影響のないように注意してください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。

⚠ 安全使用上の注意

- 誤飲などのないよう注意してください。誤って飲み込んだ場合には吐かせないで、直ちに医師の手当を受けさせてください。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けてください。
- 原液は眼に対して刺激性があるので、散布液調整時には保護メガネを着用して薬剤が眼に入らないよう注意してください。

- 眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすしてください。
- 散布の際は農薬用マスク、手袋、長スボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 本剤は自動車や壁などの塗装面に散布液がかかると変色するおそれがあるので、散布液がかからないよう注意してください。
- 魚毒性…使用残りの薬液が生じないように調整を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 保管…火気を避け、食品と区別して、直射日光が当たらない低温な場所に密栓して保管してください。

●ラベルをよく読んでください。●記載以外には使用しないでください。●小児の手の届く所には置かないでください。●空容器はほ場などに放置せず、3回以上水洗し、適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。

